

大阪府歯科保険医協会  
会誌  
発行人 志岐 北村清一  
大阪府浪速区幸町1-2-33  
電話(06)6568-7731(代表)  
http://osk-net.org/  
●定価・年間10,000円 月1,000円  
●1977年5月23日第三種郵便物認可

政策学習会

# 地域ケアの鍵は歯科医療

## 充実めざし世論の喚起を

政府の低歯科診療報酬政策の歴史や今後の歯科医療の在り方を考えようと、協会は2月4～5日に保険医会館で政策学習会を開いた。

### 三層構造で生活者守れ



岡崎祐司氏

「地域包括ケアシステムと歯科医療」と題して講演した岡崎祐司氏(佛教大学教授)は、安倍政権の医療制度改革の中身について、「国家主義的な医療統制」と述べ、医療の営利主義化や成長戦略に貢献する医療システムへの改変であると批判した。政府が進める「地域包括ケアシステム」の問題点として、地域格差や制度後退を自己責任や互助での穴埋めを押し付けると指摘した。

### 患者・国民との共闘を

#### 宇佐美宏氏



宇佐美宏氏

「歯科医療の過去・現在・未来」のテーマで講演した宇佐美宏氏(保団連歯科代表)は政府の低歯科医療費政策の歴史に触れ、▽自費との抱き合わせを基準とする低技術料▽保険の守備範囲の縮小▽技工料金の非定価格化の堅持——などを通じて診療報酬を抑えてきた、と指摘した。

### 70歳以上の医療費の自己負担上限の月額(網掛け部分が負担増となる)

年収	現在	17年8月	18年8月	
住民税課税 ～370万円	外来	1万2000円	1万4000円	1万8000円
	入+外	4万4400円	5万7600円	5万7600円
370万～770万円	外来	4万4400円	5万7600円	8万7430円
	入+外	8万7430円	8万7430円	8万7430円
770万～1160万円	外来	4万4400円	5万7600円	17万1820円
	入+外	8万7430円	8万7430円	17万1820円
1160万円以上	外来	4万4400円	5万7600円	25万4180円
	入+外	8万7430円	8万7430円	25万4180円

※「入+外」は入院と外来の合算の負担上限  
※医療費を100万円使った場合。住民税非課税世帯は現行を据え置き

## ストップ 患者負担増 ②

### 高額療養費

高額な医療費がかかった場合に患者の経済的負担を少しでも軽減し、受診機会を保障するために上限額を定めている高額療養費制度。同制度における70歳以上の上限額引き上げが2017年度予算に盛り込まれている。17年度から18年度にかけて、負担額の上限を段階的に引き上げる計画だ。

計画では、外来受診の限度額を年収370万円以上(月収30・8万円以上)の現役並み所得区分の該当者に対して、現状の4万4400円から、17年度には5万7600円、18年度にはさらに所

## 70歳以上をねらい撃ち

得区分を三つに分け、最大26万円程度まで負担に引き上げる。

また、住民税非課税者を除く、一般所得者には、現状の1万2000円から、17年度には1万4000円、18年度には1万8000円まで引き上げる。入院する場合には現役並み世帯、一般所得者世帯の上限額が引き上げられる予定だ。

(つづ)

(住之江区・吉田裕志)



子ども医療費助成の充実を求める小澤理事長(左手前)＝1月27日、大阪市役所

子ども医療費助成制度の対象年齢を18歳まで引き上げるために作業を進めている。大阪府は1月27日、来年度予算案に同制度の拡充を盛り込む考えを明らかにした。協会の市内4地区(北部・東部・西部・南部)との協議(市役所内)で回答した。協議は、昨年8月に提出した69項目の要望書を基に開いた。協会

## リグロスの適応を解説

大阪大・村上教授が講演



臨床・学術部は1月29日、「FGF-2製剤による歯周組織再生誘導」と題して、昨年11月に保険導入されたリグロスに関する特別生涯研修をM

## 大阪市 医療費助成18歳まで拡充へ

### 市内4地区との協議で回答

述べて、保険で良い入れ歯運動や眼内レンズ運動などの例を紹介。関係団体との一致団結や患者・国民との共闘を図り、保険で良い歯科医療を目指す大運動を訴えた。

査結果を示し、①対象年齢を速やかに18歳まで拡充②一部負担金を無料③所得制限の撤廃——などを求めた。市は、11月診療分から対象年齢を18歳まで引き上げることをめざしていると答えた。

吉田裕志副理事長は、生活保護指定医療機関への指導場所の改善を要望。市側は、電話で「(場所)は医療機関でよろしいですか」と尋ねているとし、医療でも市役所で

も希望場所を言ってもらえれば対応すると答えた。また、基金のデータから一般と生保で一枚あたりのレセプト単価の差が大きい医療機関などを選んでいるとし、歯科の指導は概ね月1件程度と述べた。選定理由は、聞かれたら答えるとした。

辻本勝副理事長は口腔保健事業の拡充を要望した。

当日は小澤理事長ほか役員7人が参加した。

**お詫びと訂正**  
2月15日付1面の「1月度生涯研修」記事で、講師の北村清一郎氏の写真は誤りでした。別の生涯研修の講師、村上伸也氏の写真を誤りとして掲載した。お詫びして訂正します。

**歯界**  
壁に掛けてあるモンサンミシエルの写真を見ながら「きれいななあ」とつぶやき、もう一言「ただの古寺だが、遠くからの写真やからうなあ」とまでは良かった。「婆も同じやろなあ」と小声で言ったのが聞こえたら、足蹴りが跳んできた。危ない。一言が「口は災いの元」になる。

ある会で何人も女性の群からバレンタインのチョコを頂いた。「ありがと」の後に嬉しさのあまり調子に乗って「だが、乞食と医者からはお返しが無いよ」と言ったら翌年からチョココレートはゼロになった。大学の同門会から「城崎にカニを食いにいこう」との誘いがあった。妻の病気が息子の入学で干上がった私には見栄を張って貧乏を隠したが、言葉がまずかった。「カニなんか道頓堀にあるやないか」と幹事への思いやりゼロだった。以後、誘いはなくなった。人は耳に入る言葉で相手への好悪を決める。口は封印して聞き手に回るのが良策である。